

令和3年度 大東市総合計画・総合戦略審議会 会議要旨

- 1. 開催日時 令和4年3月8日（火）午前10時00分
- 2. 開催場所 大東市役所 本庁舎2階 委員会室 および オンライン

3. 出席者

審議会委員

- | | | |
|---------------|-------|--------|
| ・ 1号委員（市議会議員） | 東 健太郎 | 委員 |
| ・ 1号委員（市議会議員） | 木田 信幸 | 委員 |
| ・ 1号委員（市議会議員） | 品川 大介 | 委員 |
| ・ 1号委員（市議会議員） | 中河 昭 | 委員 |
| ・ 2号委員（学識経験者） | 三吉 修 | 委員 |
| ・ 2号委員（学識経験者） | 澤登 千恵 | 委員（欠席） |
| ・ 2号委員（学識経験者） | 伊東めぐみ | 委員 |
| ・ 3号委員（行政機関） | 津崎 洋介 | 委員（欠席） |
| ・ 3号委員（行政機関） | 野田 一之 | 委員 |
| ・ 4号委員（市民代表者） | 萩原 清 | 委員（欠席） |
| ・ 4号委員（市民代表者） | 川村 常雄 | 委員 |
| ・ 4号委員（市民代表者） | 里中 清和 | 委員 |
| ・ 4号委員（市民代表者） | 寺本 一司 | 委員 |
| ・ 4号委員（市民代表者） | 松井由起子 | 委員 |
| ・ 4号委員（市民代表者） | 土山 純 | 委員 |

事務局

- | | |
|------------------|-------|
| ・ 政策推進部長 | 東 克宏 |
| ・ 政策推進部総括次長 | 清水 鉄也 |
| ・ 政策推進部戦略企画課長 | 福田 悦子 |
| ・ 政策推進部戦略企画課課長補佐 | 西川 政男 |
| ・ 政策推進部戦略企画課上席主査 | 北谷 友香 |
| ・ 政策推進部戦略企画課係員 | 富田 咲希 |

4. 案件

- ・ 会長の互選について
- ・ 「幸せデザイン 大東（第5次大東市総合計画および第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略）」の進捗の検証にかかる諮問について
- ・ 大東市総合計画・総合戦略審議会について

- ・「幸せデザイン 大東（第5次大東市総合計画および第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略）」の進捗の検証について
- ・その他

5. 配布資料

- ・資料1：大東市総合計画・総合戦略審議会規則
- ・資料2：大東市総合計画・総合戦略審議会 委員名簿
- ・資料3：「幸せデザイン 大東」進捗検証報告（案）

6. その他

傍聴希望者 0名

7. 発言要旨（協議または調整が行われた事項およびその内容）

【事務局】

本日は年度末のお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。また、このたび、皆さま方には「大東市総合計画・総合戦略審議会」の委員をお引き受けくださり、誠にありがとうございました。本来であれば、直接個別にご挨拶にお伺いすべきところですが、このようなコロナの状況ですので、大変申し訳ございませんが、この場をお借りして御礼申し上げます。

それでは、只今から、令和3年度大東市総合計画・総合戦略審議会を始めさせていただきます。本日は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、オンラインと会場とのハイブリッド型で開催させていただきます。イレギュラーな開催方法となりますが、ご了承のほどお願い申し上げます。

まずはじめに、「大東市審議会等の公開に関する規程」第3条第1項におきまして、本審議会は公開する旨規定しており、傍聴を認めさせていただいております。本日は傍聴の申し込みはございませんでした。

それでは、開催に先立ちまして、委嘱状を市長代理としまして副市長より交付させていただきます。本来であれば、お一人おひとりに委任状を手渡しさせていただくべきところではございますが、今般の新型コロナウイルス対策の観点から、本日はお名前の読み上げのみとさせていただきます。

なお、澤登千恵委員と津崎洋介委員、萩原清委員につきましては、本日ご欠席の旨ご連絡いただいておりますので、委嘱状の読み上げを割愛させていただきます。

それでは副市長、よろしく申し上げます。

【副市長】

（委嘱状の交付）

（あいさつ）

【事務局】

以上、欠席者の方も含め、15名の方に大東市総合計画・総合戦略審議会委員として委嘱をさせていただきました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

では本日は、1回目の会議ですので、自己紹介を兼ねて、簡単に一言ずつあいさつをお願いいたします。

【各委員】

（あいさつ）

【事務局】

（事務局紹介）

（配布資料の確認）

では、進めてまいります。早速ではございますが、大東市総合計画・総合戦略審議会規則第2条第3項の規定に基づきまして、審議会の会長を互選させていただきたいと存じます。なお、会長をご選任いただくまでの間の審議会の議長は、審議会規則に基づき市長が担うこととなっております。本日は市長が公務のため欠席しておりますので、副市長に進行をお願いいたします。

【副市長】

それでは、会長をご選任いただくまでの間、私の方で議事進行をさせていただきます。まず最初に、会長を選任させていただく方法についてご意見をいただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

【委員】

事務局に一任で。

【副市長】

ただ今、委員から「事務局一任」とのご発言がありました。いかがでしょうか。

【各委員】

異議なし

【副市長】

ご異議がないようですので、事務局から会長候補を推薦させていただき、委員の皆さんのご同意を賜りたいと存じます。

【事務局】

それでは、事務局から候補を推薦させていただきます。事務局といたしましては、これまで長年、本市の総合計画に携わっていただき、昨年度もこの総合計画・総合戦略審議会で会長を務めていただいた三吉委員をお願いいたしたいと存じますので、よろしくご同意賜りたいと存じます。

【副市長】

ただいまの事務局の推薦結果について、ご異議はございませんか。

【各委員】

異議なし

【副市長】

ご異議なしということですので、委員の皆さまの拍手により、ご同意を確認させていただきたいと存じます。

【各委員】

(拍手)

【副市長】

それでは、三吉委員、よろしくお願いたします。会長の選任につきまして、委員の皆さま方のご協力により、無事選任いただくことができました。ありがとうございました。

【事務局】

続きまして、総合計画・総合戦略審議会へ、総合計画・総合戦略の進捗の検証にかかる諮問をさせていただきます。

【副市長】

「諮問書 大東市総合計画・総合戦略審議会会長 三吉修様 「幸せデザイン 大東（第5次大東市総合計画および第2期大東市まち・ひと・しごと創生総合戦略）」の進捗の検証にかかる、貴審議会の意見を求めます。令和4年3月8日 大東市長 東坂浩一」どうぞよろしくお願いいたします。

(諮問書の提出)

【副市長】

ただいま、無事に三吉委員に会長にご就任いただき、諮問書をご提出させていただきました。皆さまのお力をお借りし、次の施策へとつながる検証を行いたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、大東市総合計画・総合戦略審議会規則第3条第1項の規定により、本会議の議長は会長がその職に就くこととなっておりますので、以後の議事につきましては、三吉会長にお願いしたいと思います。

【事務局】

それでは、会議に先立ちまして、会長から一言ごあいさつを頂戴したいと存じます。

【会長】

(あいさつ)

それでは、本日の次第に基づいて会議を進行させていただきます。

まず、最初に、審議会規則の第2条第5項に「会長に事故あるとき又は欠けたときは、あらかじめ会長の指名する委員が、その職務を代理する」とありますので、その代理者を指名したいと思います。野田委員、お願いできますでしょうか。

【委員】

承知しました。

【会長】

それでは、会議次第にある、審議会についての説明を事務局よりさせていただきます。

【事務局】

(審議会についての説明)

【会長】

それでは、配布資料についての説明を、事務局からお願いします。

【事務局】

(資料の説明)

【会長】

今、事務局より、総合計画・総合戦略の進捗状況について、市民意識調査の結果や総合計画・総合戦略に定められた目標値に対する今年度の結果・考察等の説明がありました。

事前に論点についてお示しがされていたかと思いますが、まずは、1点目として、総合計画の基本目標および総合戦略の6つの重点項目と下支えの体制（行政サービス改革）について、成果が見られる項目と、課題だと感じる項目、またその理由をお聞かせいただけたらと思います。その上で、2点目として、その課題の改善策などについて、ご意見を頂戴できればと思います。

お一人3分程度を目安に、お一人ずつご意見を頂戴できればと思いますので、よろしくお願いいたします。

【委員】

総論的な意見になりますが、大東に対する満足度の数値が、令和2年度からの1年間でこれだけ下がってしまっており、また、将来への期待度の数値もかなり下がる結果となっているというところがとても気になるところです。説明の中では、コロナ禍による、特に40～64歳の方の生活状況の低下が反映されているのではないかという指摘もありましたが、この数値の下がり方を、さらに十分に分析する必要があるのではないかと考えています。コロナだけの影響なのか、それともほかの要素も加わっているのか、そこが大きなポイントになると考えています。

一方で、人口構成バランスの適正化というところで、大東市は他市に比べても高齢化率が比較的低いという数値になっており、令和2年、3年につきましても、ほぼ横ばいになっています。高齢化の数値を上げないということは、人口バランスを維持するということであり、これは大変重要なことだと考えています。と言いますのも、安定的な財政基盤がこれで図られるということがあり、それにより、子ども施策や子育て世代への施策、また、高齢者施策など、バランスよく実施できるのではないかと考えるからです。今後ともすべての世代にターゲットを当てて、魅力あるまちづく

りというものが継続して必要ではないかと考えています。

【委員】

「公共交通を使って移動しやすいまち」の項目について、非常に評価が高くなっていますが、この点について、JRを対象とした交通機関の評価なのか、路線バスを含めての評価なのかがわかりません。バスの利用について提案がありますので、またのちほど機会があれば述べたいと思います。

【委員】

まず1点目として、アンケートの方法と回答者について、どこまでの範囲でとられているのかが疑問に思いました。もう1点ですが、将来に向けての期待度が低いことについて、危惧するところ です。その要因については、コロナの影響という結論だけでなく、他の視点からも分析を行い、将来につなげていけたらと思います。

【会長】

検証報告案にも調査の概要が載っていますが、対象者が2,000人、有効回答数が47.8%となっており、統計学に詳しくはないのですが、大体これで統計学的には、市民意識を反映できると言われている数値になっていると思います。アンケートの対象者は、住民基本台帳から無作為に抽出しておりますが、回収率の高さから見ると、この市民意識調査は、おおよそ大東市民の考え方を反映しているものとみなせると思います。

【委員】

ありがとうございます。調査の概要の中の、有効回答数956人というところで、偏りなどがな いか気になったということです。統計学上問題がないのであれば良いのですが、もう少しアンケートを取られてもいいのではないかと思います。

【会長】

検証報告案の中の各項目で、全体や年齢別の棒グラフが掲載されており、具体的な回答人数が記 載されています。これでおおよその年代の分布は分かるかと思います。統計学的には、信頼性が担 保される範囲内とされる数字になっているのではないかと思います。

【委員】

「大東には元気な高齢者が多い」と感じる人の割合が54.9%であり、年齢別で見ると、肯定 的意見が20歳代で最も高く、次いで30歳代となっています。都市部では特にですが、全国的に 見ても、コロナ禍などもあって、つながりが希薄になっている中で、高齢者が心身ともに弱って いるのではないかと感じていました。しかし、この調査結果を見ますと、年齢を重ねても社会で 活躍し続けたいと感じている人が多いのだなと感じました。

なぜこういうことを言うかという、私は地元で高齢者を中心に、あるいは子どもたちの虐待問 題を中心にいろいろと関わっていますが、一人住まいや身寄りがないという人が多いように感じて

いました。そういう方々の見守りなど支える人が必要ではないかと思っています。今後とも大東のまちづくりに関わりたいという人が一人でも増えてほしいと思います。

【委員】

不登校率が増加していることが気になっています。私には中学生の子どもがいますが、知人にも数人お子さんが学校にいけないということで悩んでいる方がいます。少しお話を伺うと、まず学校に行くという選択肢しか用意されていないということを聞きます。「別室に登校するという選択ではどうか」と学校に働きかけても、クラスの中に入るということを提示されることが多いようです。別室なら行けそうなのに、その選択肢は用意されず、また、タブレットは配付されていますが、オンライン授業というのはまだまだ現実にはなっていないで、学校のクラスに入れないということで教育を受ける機会が著しく下がっているのが、今の現実かと思っています。選択肢を増やすようにできないかということは常々思っていることです。

不登校は子どもだけの問題ではなく、保護者の生活の満足度にもとても関わっていると思います。中学校や小学校高学年の不登校だと、40代、50代の親が多いと思うのですが、ものすごく悩み、親子ともども満足度がとても低い状態で過ごしてしまうことになっていきます。「とにかく学校に来てください」と言うだけでなく、選択肢を増やすことが何らか解決の糸口になるのではないかと感じています。

【委員】

「出産や子育ての安心と魅力の創出」分野の満足度についてですが、就学前の子どもがいる保護者に向けては、とても成功していると思いますので、それ以降の不登校等につながる部分が少し弱いのではないかと思います。ですので、その先の支援について、ネウボランドなどをもっと前に押し出してやっていってはどうかと思っています。ネウボランドについては、知っている人しか知らないというような、少し隠れているイメージが今はあるので、それをもっと発信していくと、40代、50代の大東市に対する期待値にもつながっていくのではないかと思います。

40代、50代の方の期待値が下がっていることについては、コロナの影響が大きいと思うのですが、これは全国的にも言えることですが、やはり今回のコロナのことも含めて、有事のときにどれだけこのまちが頼りになるかのアピールが大事になってくると思います。例えば地震が起きたときに、どうしたらいいのかという不安をみんな持つと思います。コロナも一緒に、コロナで仕事が無くなったとか、減ったとか、そういうときにどうすればいいのかということについて、みんなが情報を探しに行く時に、デジタルが活用され、きちんと情報が入ってくる体制ができれば、強みになるのではないかと思います。

【会長】

ネウボランドだいたいの活動について少し説明していただけますか。

【事務局】

「ネウボランドだいたう」は、妊娠時も含め、0歳～18歳までの子どもについて、切れ目のな

い子育て支援をしていくというものです。「ネウボランドだいとう」の窓口に行けば、専門職員がおり、相談に応じて必要な支援につなぐことができます。

また、子育て中の皆さんの交流や、来年度になります。5歳児の皆さんに入学前のギフトをお配りさせていただき、配付時に保護者の悩みや相談をすくい上げ、関わっていくような、早期発見を兼ねた事業を予定しているところです。

【会長】

検証報告案にも「子育てするなら、大都市よりも大東市。」のブランドメッセージにふさわしい取組を充実することが必要と書いてあります。そのための一つの取組として、「ネウボランドだいとう」があり、その中で18歳まで切れ目のない施策をやっていくというものがあります。そして、量的支援から一人ひとりの子どもさんや保護者に対しての質的支援へのシフト、マスの支援から一人ひとりの状況にあわせた支援というものに施策転換していくことが必要だと書かれています。

【委員】

特に気になる点として、転入者が減少傾向にあるということがあります。やはり「転入したい」という気持ちになっていただくためには、特に20代～40代の子育てをされているような若い世代に転入していただけるような、転入してきたいと思えるような施策をすることが必要だと思います。それはやはり、学力向上や不登校児童をなくすとか、子育てしやすいまちにしていく施策を充実させていくことだと思うのですが、その中で、私も不登校児童数が増えていることが気になりました。そういったところについて、学力向上を含めて改善していくことが、ひいては転入者を増やすことにつながると思います。

また、知育アプリの使用によって学力向上の効果があるということも掲載されていましたが、先ほど委員の意見にもありましたように、学校でタブレットを配布されているということではあります。やはりもっとオンラインやタブレットを活用した授業というのを充実させていくことが必要だと思います。それによって、学校に来ることには抵抗があるけれども勉強はしたいという子どもたち、不登校の子どもたちの学力向上にも効果が出てくると思うので、やはりもっとオンラインやタブレットの活用を充実させていただきたいと思います。

また、若年者層の社会増減に改善が見られなかったり、「子育て環境が充実した子育てしやすいまち」についての改善の度合いが少なかったり、というところを見ると、もっと「ネウボランドだいとう」の機能強化をしていただきたいと思います。今の若い世代の方は、スマホやネットで情報を受け取っていると思いますが、「ネウボランドだいとう」のホームページを拝見しましたが、内容が充実していると思う反面、情報が一元化されておらず、分かりにくいと思いました。若い世代の方はみんなネットから情報を取るので、「ネウボランドだいとう」のホームページを含めて整理をされたら、もっと活用してもらえないかと思いました。

【会長】

一度でわかるようなホームページの在り方については、報告案の「調査結果からの考察」の中で

も「確実に情報を届けていくことが必要」と書いていますので、まだまだそういう意味では行政としても、努力が必要だというご意見だったと思います。

また、学力や不登校児の問題については、委員の皆さまが気になさっているポイントであるということの指摘であったと思います。

【委員】

私は生まれも育ちも大東市ですが、昔に比べ、ずいぶんと良くなったと思っています。私自身は四条駅を中心に生活をしていますが、野崎、住道、鴻池新田と、素晴らしいまちづくりが進められています。また、今は三好長慶がクローズアップされて、ドラマ化への機運も高まってきているところです。今後もこういった様々な取組で、もっと良いまちになっていけばと願っています。

【会長】

今ご意見がありましたように、大東のブランドイメージを高める一つとして、三好長慶があって、これに今、一生懸命取り組まれているところです。皆さんもご覧になられたかもしれませんが、NHKに行かれて、三好長慶を主人公とした大河ドラマの制作の要請をされたという記事が新聞にも掲載されていました。もしかしたら、そういった大河ドラマが今後実現するかもしれないという期待のご意見だったかと思います。

【委員】

まず、評価と課題ですが、特に防犯に関する取組に関しては、費用対効果も含めて素晴らしい効果があったのではないかと考えます。防犯は治安に関するものですので、安全・安心なまちづくりに直結します。既存の啓発活動に終始せず、スローガンの目的と目標のもと、市民協働で大々的にPRすることによって、大東市のPRにもつながるのではないかと考えます。

また、市・まち全体のブランディングについては、morinekiやズンチャッチャ夜市、子育て施策など、10代、20代に対してのブランディングはある程度一定の評価ができると思います。今後、末広公園や野崎・四条駅の整備で、さらなるイメージの定着を期待できると考えます。

一方で、40代、50代の満足度を上げていくという取組が必要になってくると思います。例えばですが、40代後半から50代、つまり子育てを終えた方々の視点が、子育てから自分の健康や親の健康、将来への負担や不安へとシフトすると仮定すると、健康の指標として、国保対象者だけではなく、例えば禁煙外来や乳がん・子宮がん検診など、生産人口がメインターゲットになるようなアプローチが重要になってくるのではないかと考えます。特にコロナ禍で、健康への意識や関心が高まっているところですし、また、今まで経験したことがないような、例えば親の認知症であったり介護であったり、施設を探したりということが非常にストレスになるケースも多くある状況です。このあたりについて、例えば、日常から包括支援センターへのアプローチがしやすい環境などが構築されれば、40代、50代の安心、そして将来の自分の健康への安心にもつながっていくのではないかと考えます。

また、市内の所得に関してですが、ぜひ類似市との所得のメッシュデータの比較というものをいただけたらと思います。以前から大東市の平均所得は府内でも低い方になってしまっている状

況が続いています。この原因が何かというところの分析について、例えば北楠の里、南楠の里、緑が丘など、一種低層エリアの地価や空家がどのように推移しているかということ調べることによって、大東市の所得層というのが、どのように移行しているのかがわかると思いますし、平均所得の向上にも参考となるデータが集められるのではないかと思います。

それから、今までの社会型福祉の考え方から、SDGsにあるように、すべての人の健康と福祉へのシフト、つまり中間層へのアプローチにシフトしていくことが必要ではないかと思います。例えば、様々な所得制限の撤廃や大阪市が実施しているような習い事の補助など、ボトムアップではなく、中間層にアプローチできる施策を進めていくことによって、大東市が福祉のまちから、生きがいや健康福祉のまちになっていくのではないかと思います。

最後にもう1点、どうしても北河内という枠にくくりがちですが、一方で、新型コロナの発生事例を見てもわかるように、大阪市や東大阪市とのつながりの方が市民感情的には多いのではないかと思います。京阪沿線の北河内をターゲットにするのではなく、中河内、つまり大阪駅や淀屋橋にアプローチしにくい地域についてもアプローチし、今後定住化を図るということも必要ではないかと思います。

また、サイレントマジョリティーと呼ばれるようなアンケートに反映されないニーズについて、お金を払ってでも情報を集めて満足度を上げていく取組が今後重要になってくると考えます。

【委員】

成果が見られる項目については、ないのではないかと感じています。一方、課題としては、満足度や将来の期待度があまりにも低いことではないかと思います。コロナの影響もあるかもしれませんが、やはりビジョン的なものが上がってこない、皆さんの大東を良くしていこうという機運が盛り上がらないという気持ちでいます。その中で、人口構成バランスの適正化に対しては、まだ良い数値が出ていますので、これが悪くならないうちに早い対策を打たなければならないと思います。

改善策としては、様々な事象は相関関係があって単純には動かないと思いますが、皆さんの関心の高い教育分野で、学力を上げるということが一番分かりやすいと思っています。教育が向上することで、子育ての安心にもつながると思います。すべての面で上げるのは難しいかもしれませんが、わかりやすいところに注力していく、例えば観光面であれば、飯盛城跡など、まちづくりと相乗効果を生むようなテコ入れをしていかなければならないと思っています。

【委員】

検証報告案についてはわかりやすくまとっていると思います。その中で、大東に対する満足度については、数値が悪化しています。全国的にも先行き不透明感、将来への不安が蔓延しており、特にミドル世代の生活満足度が低下していて、本市も同様の傾向にあるとみられるとありますが、こういった時こそしっかりと頑張ってやっていく、大東市の本領発揮だという思いでやっていく必要があるのではないかと思います。全国と同じ傾向であり、コロナの影響もあるかもしれませんが、それと同じ流れで行くということではなく、こういった時こそ、しっかりと深掘りをし、実情を踏まえて大東市ならではの施策を講じていくことが重要になってくるのではないかと思います。あのときにコロナがあったからこそ、今日の大東市があると言えるようなことをしていくことが大事にな

っていくのではないかと思います。それが大東の将来への期待度の向上にまたつながっていくのではないかと思います。

データ数が956ということについて、若干気になるのは、年代によって数にばらつきがあることです。均等にしていけば、より信頼性のあるデータになってくるのではないかと思いますので、このあたりを今後の課題にさせていただけたらと思います。

「エリアの価値を高める都市整備と都市空間の創出」にフォーカスしてお話させていただくと、駅前の地価の上昇というところで、数値は横ばいになっていますが、今後駅周辺開発もある状況の中で、ここ1～3年の開発で環境も変わってくることがあると思いますので、今後の開発について、見せ方も含めてしっかりと配信していくことによって、またこのあたりの評価も結果として変わってくるのではないかと思います。

住みたい自治体ランキング関西版においては、初めてランクインしたということで、30位以内をめざすというところもあります。この項目に関してはすべての分野の柱につながる内容になっていくと思いますので、このあたりもしっかりと注目して見ていきたいと思っています。

【会長】

ありがとうございました。それでは、私からも気になる点をお話させていただきたいと思っています。まず、先ほども統計の話をしていただきましたが、この意識調査というのは、市民がどう受け取っているのか、また、市民からどのような見方がされているのかということについては、一定の効果があると思うのですが、これは具体的なものではなく、表面的なものが出ているという面があるかと思っています。ですから、これから行政として「幸せデザイン 大東」を進めていくためには、さらに課題の中身を掘り下げていく必要があると思います。その時には、表面的なことではなく、生活の質を向上させるために、行政はこれから何を具体的にやっていくのかという観点が必要ではないかと思っています。例えば、転出者のことなども報告案に書いていますが、転出する人に対してアンケート用紙を渡して、単身で転出するのか家族で転出するのか、あるいはその理由として転勤なのか進学なのか就職なのか故郷へのUターンのかなどを聞き取り、具体的にみていく必要があると思います。そうすると転出者数をできるだけ少なくするためには、具体的にどういう政策を進めていけばいいのかというのが少しわかってくるのではないかと思います。

また、教育のところでも非常に気になるのが、特に不登校の子どもについてです。計算すると実際にこの大東市で40人に1人の方が不登校になっているということになり、つまりは、約1学級に1人の不登校の割合ということになります。その問題をマスの分析だけでなく、一人ひとりに先生や学校、友達に対してどう思っているのかということを知るところから、不登校というものの原因が出てくるのではないかと考えています。

この調査において、小学生や中学生の子どもがいる保護者の回答が一番肯定的意見と否定的意見がはっきりと分かれているということは、すなわち非常に関心があるということです。それ以外の子どもさんがない方や子どもが社会人になっておられる方などは、関心が低いわけです。そういう意味で、学校が小学生や中学生に対して、無記名で良いので、学校に対してやってほしいことや問題、課題、先生や友達に対する不満足などを実際に具体的に書いてもらうことで、課題の解決につながるのではないかと思います。定量的に数%しかいないからいい、ということではなく、そこ

にそういう問題があるという一つの意見から、今の学校制度や実際の教育の中での問題点を見つけることによって、その学校・教育に対して満足度を高めることができるのではないかと思います。たった一人の意見であっても、そこから本質的な問題が出てくるかもしれない、そういうような行政の進め方というのを期待したいと思います。

それから、行政と学校、企業との連携ということが書いてありますが、昨年度の審議会での意見を取りまとめ、市長に答申した際に、高校生や大学生、大学、産業・企業、行政の4者が一堂に会して、「大東メッセ」というようなものをしてはどうかと提案しました。このうちのいくつかの連携であれば、今も行われているのですが、4者合同というものはありません。ですので、例えば大東市内のある会場で、大学の先生がどんなことを研究しているのか、自分はどんなことができるのかということを、先生一人ひとりが屋台のようなものをもってアピールする、逆に誰でもその先生にアプローチできるという場を作ってはどうかと思っています。企業の方は、このような企業活動をしているとか、こういった社員が入ってきてほしい、ということをおアピールする。企業とすれば、大学の先生が研究していることについて、自分の企業と一緒にやれるのではないかと、自分の企業も良くなるのではないかとという可能性を探れますし、高校生とすれば、次の大学を選ぶときに、市内にこういう大学があって具体的にこういうことを研究している先生がいる、ということを知る非常にいい機会だと思います。そして大学生は、市内にこういう企業があってこういう活動をしているんだということを知ることができる、そしてそれをサポートする行政がいる、もちろんそこに市民も参加することもできます。こういうことをやれば、どこからデジタル化していいかわからないとか、基礎知識や情報不足という声に対して、大学の先生方は自分の研究を役立て、つなげていくことができます。高校生も進学の際に役立つし、大学生も就活の際に役立つ、企業とすれば新入社員を獲得することもできるだろうし、大学の先生とのコラボで研究もできるんじゃないだろうかと思っています。そういう仕組みづくりを行政がサポートしてやっていけば、大東市も良くなっていくのではないかと考えています。

それでは、皆さんにご意見を頂戴しましたが、それぞれの委員のご意見に対し、ご質問やご意見がある方、また、論点以外の部分でご意見等のある方、先ほど、のちほどご意見を述べられたいとおっしゃっておられた委員もいらっしゃったかと思っていますので、ご発言をお願いできればと思います。

【委員】

先ほど、会長がおっしゃっておられた大学等とのマッチングの場については、大阪産業大学と大東商工会議所と大東市の3者で行ってる「大東産業活性化協議会」というところで、大学の研究の情報共有や、何かジョイントできる企業がないかなどを考えたりしています。ただ、メッセというような形で大会を開くまでには至っていませんので、今後そのご意見も踏まえ、大東産業活性化協議会の中でも実現化できる形づくりをしたいと思っています。

それから、公共交通機関の件ですが、今、市内では近鉄バスが走っていますが、やはり路線バスというのは、なかなか活用されていないのが現状ではないかと思っています。道路の無電柱化によってバス停留所をもっと広くとって社交場にするとか、主要なコンビニを停留所にしてバスを走らせれば、コンビニで降りて、コンビニで物が買えて、コンビニで待って、コンビニでバスに乗れる

ということができるとは思っていないかと思っています。

今は、いわゆる若者のバス離れが続いているのではないかと考えております。公共交通機関が便利だと50%を超える人が感じているということですが、これはJRだけの便を考えているのではないかと思います。コミュニティバスなどが結構出ていますが、大東市内には、無電柱化すれば駐車できる可能性のある場所がいろんなところにあります。これから大東市が無電柱化をしていき、非常に交通の便が良くなって、バスに乗ってどこにでも行けるということになれば、高齢者や若年層の方、運転免許のない方を含めて、大東市内を自由にまわれるということになり、人も集まってくると思いますので、そのあたりの無電柱化と近鉄バスを活用についても、総合戦略の中で考えていただきたいと思っています。

【会長】

1年前の議論にもありましたが、大東市はJRの便については非常に良く、大阪市内に短時間で出ることができるけれども、問題として、東西の交通網はいいけれど、縦の南北の連絡があまり便利ではないということがあります。隣の寝屋川市や東大阪市、八尾市に行こうとしても、バスに頼らないといけません、そのバスが少し不便というか、特に八尾枚方線などは交通渋滞もひどく、なかなか時間通りにいかないというところもあります。そういう問題もあるのですが、やはりこれから高齢者が増えて、免許を返納した時の足の確保というものは、非常に重要な問題だろうと思います。

また、JRの駅前が無電柱化でききれいになっていますが、市内全体としてそれを進め、自転車道を自転車で完全に走れるようなまちというのも、うまくいくのではないかと思います。大東市というのは比較的面積が狭いので、そこを逆に活かして、どこでも自転車で安全に移動ができるまちというのも、非常に魅力的なまちです。そういうようなことも必要ではないかと思います。

他にご意見はありますか。それでは、委員の皆さま、貴重なご意見ありがとうございました。それでは、本日の議題は以上で終了させていただきたいと思っています。本日の皆様からのご意見を踏まえ、最終的に答申として取りまとめを行いたいと思います。この答申につきましては、一旦、案として取りまとめ、書面上で皆さま方にご確認いただくことを予定しています。皆さま方にご確認いただいたあとの最終の答申につきましては、私に一任させていただくということで、よろしいでしょうか。

【各委員】

承知しました。

【会長】

では、最終的な答申につきましては、私に一任いただくということで、進めさせていただきたいと思っています。皆さま、ありがとうございました。今日やったような進捗の検証については、今後も実施するということ聞いております。そのこともこのあと事務局から説明があると思いますのでよろしく願います。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

【事務局】

三吉会長、委員の皆さま、ありがとうございました。本日皆さまから頂戴いたしましたご意見につきましては、今後の本市の取り組みにつなげていけるよう、外部検証の結果の報告として、庁内の幹部職員をはじめ、各課に周知することを予定しております。

それから、さきほど会長からもお話がありましたように、このような検証を今まではほとんどやってこなかったのですが、新しい「幸せデザイン 大東」につきましては、毎年このような形で検証作業を繰り返しながら、内容の改訂につなげていきたいと考えております。

それでは、本年度は、皆さまに集まっていただき意見交換をしていただく会議は、本日の1回のみとなります。このあと、答申案の確認及び出来上がった答申のご報告など、都度ご連絡を差し上げたいと考えておりますので、任期の3月末まで、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。それでは、これをもちまして会議を閉会いたします。皆さまには、年度末のお忙しい中ご参加いただき誠にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。